

【05. 3期決算説明会資料要約】

05. 3期は20%営業増益で中計の2年 前倒しを達成

—原材料高騰を企業努力で吸収し更なる増益を目指す—

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 永田昌久

2005年6月8日

ホームページURL:<http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先:経営管理部

総務・広報統括部長 吉村孝憲

TEL:042-330-8000 FAX:042-330-8017

第1部 05. 3期決算説明

(1) 05. 3期決算 —02. 3期以降3期連続で増収増益—

1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績差 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
売上高 連単倍率	1,363 1.19 倍	1,490 1.17 倍	1,582 1.22 倍	116.1 % 102.3 %	106.2 % 104.1 %
営業利益 (率)	64 4.7 %	66 4.4 %	77 4.9 %	120.3 %	116.7 %
経常利益	46	47	62	134.8 %	131.9 %
当期純利益	20	25	32	160.0 %	128.0 %
一株当たり 当期純利益	5.39 円	6.73 円	8.70 円	160.0	129.3 %

2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年実 績差 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
売上高	1,143	1,270	1,299	113.6 %	102.3 %
営業利益 (率)	41 3.6 %	45 3.5 %	48 3.7 %	117.1 %	106.7 %
経常利益	33	37	42	127.3 %	113.5 %
当期純利益	14	20	24	171.4 %	120.0 %
一株当たり 当期純利益	3.75 円	5.39 円	6.39 円	170.4 %	118.6 %

一株当たり 配当金	2 円	3 円	3 円	1 円	0 円
--------------	-----	-----	-----	-----	-----

一株当たり当期純利益は前期比70%増加、
年間配当額は一株当たり1円増額し3円

(2) 事業別売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績比 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
鉄鋼製品	売上高	425	480	523	123.1 %	109.0 %
	営業利益	37	41	43	116.2 %	104.9 %
機械製品	売上高	898	977	1,026	114.3 %	105.0 %
	営業利益	60	64	75	125.0 %	117.2 %
地域開発	売上高	40	33	33	82.5 %	100.0 %
	営業利益	14	10	11	78.6 %	110.0 %
消去又は配分不能費用		△ 46	△ 49	△ 52	113.0 %	106.1 %
合計	売上高	1,363	1,490	1,582	116.1 %	106.2 %
	営業利益	64	66	77	120.3 %	116.7 %

05. 3期のレビュー

① 鉄鋼製品関連事業

発電用部材(原子力を含む)、クラッド鋼板・鋼管の受注前倒・増加のほか、圧力容器の売上増加等により売上が大幅に伸長したものの、円高、原料・素材費の高騰により減殺され、営業利益は前回予想比ほぼ横這いとなった。

② 機械製品関連事業

調達費の想定以上の上昇はあったが、売上増加に加え原価低減、増産効果及び不採算製品の減少等、採算性が向上したことにより、前期及び前回予想比増益となった。

③ 地域開発関連事業

賃貸事業用ビル(Jタワー)を売却したことにより、前期比減益となった。

(3) 連結セグメント別の業績(受注高)

輸出向けの火力・原子力発電用部材の伸長

(単位: 億円)

		04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績比 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
鉄鋼製品 関連	鑄鍛鋼部門	264	318	356	134.8%	111.9%
	鋼板・鉄構部門	191	235	258	135.1%	109.8%
	(単体部門計)	455	553	615	135.2%	111.2%
	連結会社他	26	27	28	107.7%	103.7%
	連結受注高	481	580	643	133.7%	110.9%

圧力容器の脱硫用大型案件のほか、ケミカルタンカー・淡水化プラント向けクラッド鋼板が伸長

圧縮機のほか、一般産業用機械の減少

(単位: 億円)

		04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績比 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
機械製品 関連	樹脂機械部門	410	440	440	107.3%	100.0%
	その他機械部門	335	353	316	94.3%	89.5%
	(単体部門計)	745	793	757	101.6%	95.5%
	連結会社他	193	207	236	122.3%	114.0%
	連結受注高	938	1,000	993	105.9%	99.3%

子会社化したIT装置関連の常陽工学の増加

(4) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

生産効率化投資により増産

(単位:億円)

		04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績比 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
鉄鋼製品関連	鑄鍛鋼部門	224	265	285	127.2%	107.5%
	鋼板・鉄構部門	175	189	210	120.0%	111.1%
	(単体部門計)	399	454	495	124.1%	109.0%
	連結会社他	26	26	28	107.7%	107.7%
	連結売上高	425	480	523	123.1%	109.0%
営業利益		37	41	43	116.2%	104.9%

圧力容器の大型案件のほか、クラッド鋼板の売上増加

売上に対するスクラップ、合金材料等の原料・素材費の急激な上昇に対し、代価是正効果が追いつかず

鍛圧機械、デッキクレーンのほか、レーザアニール装置が増加

(単位:億円)

		04.3 実績 (A)	05.3 前回予想 (B)	05.3 実績 (C)	対前年 実績比 (C)/(A)	対前回 予想比 (C)/(B)
機械製品関連	樹脂機械部門	396	416	404	102.0%	97.1%
	その他機械部門	313	373	373	119.2%	100.0%
	(単体部門計)	709	789	777	109.6%	98.5%
	連結会社他 (IT関連)	63	68	97	154.0%	142.6%
	連結会社他 (その他)	125	120	152	121.6%	126.7%
連結売上高		898	977	1,026	114.3%	105.0%
営業利益		60	64	75	125.0%	117.2%

常陽工学の増加のほか、デジカメ・携帯電話の減速は最小限に留まる

調達費の高騰があったものの、売上伸長及び原価低減のほか、常陽工学の増加が寄与

(5) 連結貸借対照表及びキャッシュフロー計算書

－ 賃貸事業用ビル売却による固定資産の減少と有利子負債の削減－

(単位: 億円)

	04.3 実績 (A)	05.3 前回予想	05.3 実績 (B)	対前年実績 差異 (B)-(A)
流動資産	925	1,020	1,162	237
固定資産	875	690	684	△ 191
資産合計	1,800	1,710	1,846	46

(単位: 億円)

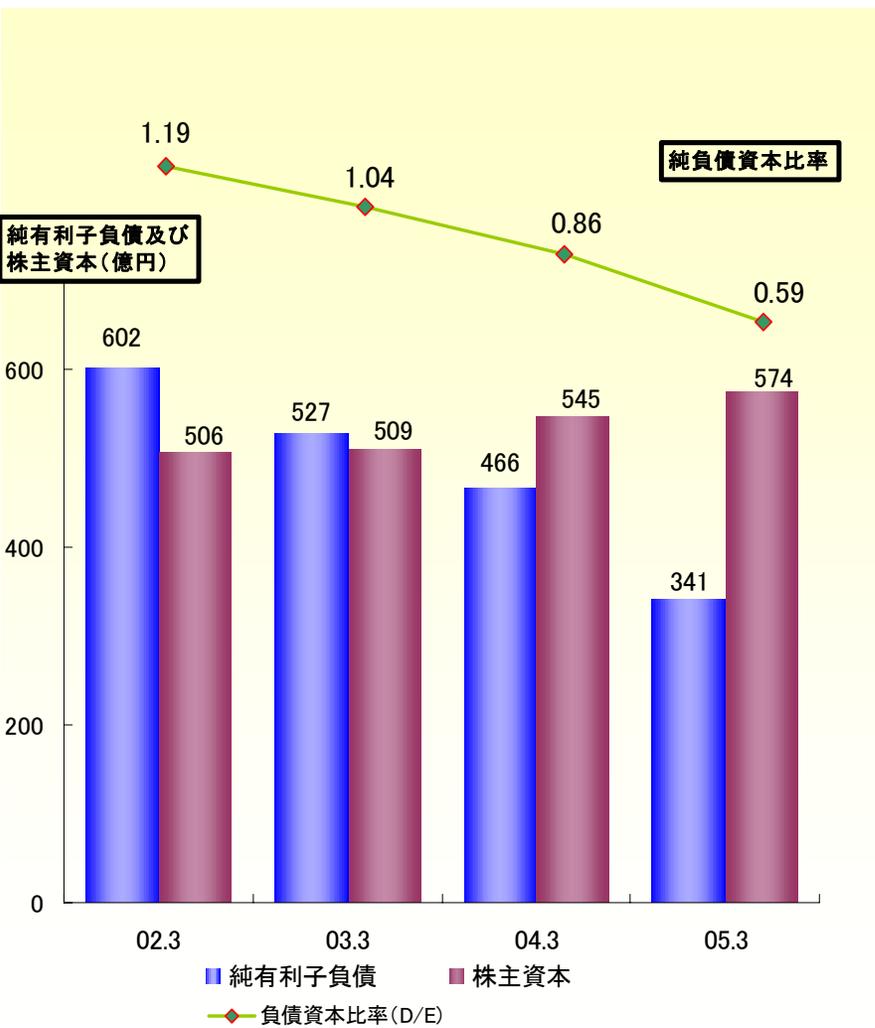
	04.3 実績 (C)	05.3 前回予想	05.3 実績 (D)	対前年実績 差異 (D)-(C)
流動負債	801	800	933	132
固定負債	453	350	332	△ 121
株主資本	545	560	574	29
負債、少持及 び資本合計	1,800	1,710	1,846	46

株主資本比率	30.3	32.7	31.1	0.8
1株当株主資本	146.9	150.8	154.6	7.7

(単位: 億円)

	04.3実績 (A)	05.3前回予想	05.3実績 (B)	対前年実績差異 (B)-(A)
営業活動 キャッシュフロー	82	16	72	△ 10
投資活動 キャッシュフロー	△ 28	59	136	108
計	54	75	209	155
財務活動 キャッシュフロー	△ 60	△ 102	△ 119	△ 60
現金及び現金同等物の 期末残高	151	124	241	90

(6) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)



05. 3期の純負債資本比率(D/E)は、0.59倍
 05. 3期の有利子負債は04. 3期比111億円減の510億円
 05. 3期の株主資本比率は31.1%

期末	02.3	03.3	04.3	05.3実績
債務償還年数(年) (有利子負債/営業CF)	17.7	6.9	7.5	7.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍) (営業CF/利払い)	2.9	7.5	7.3	6.9
有利子負債EBITDA倍率(倍) (有利子負債/EBITDA)	7.7	6.3	5.6	4.4

(単位: 億円)

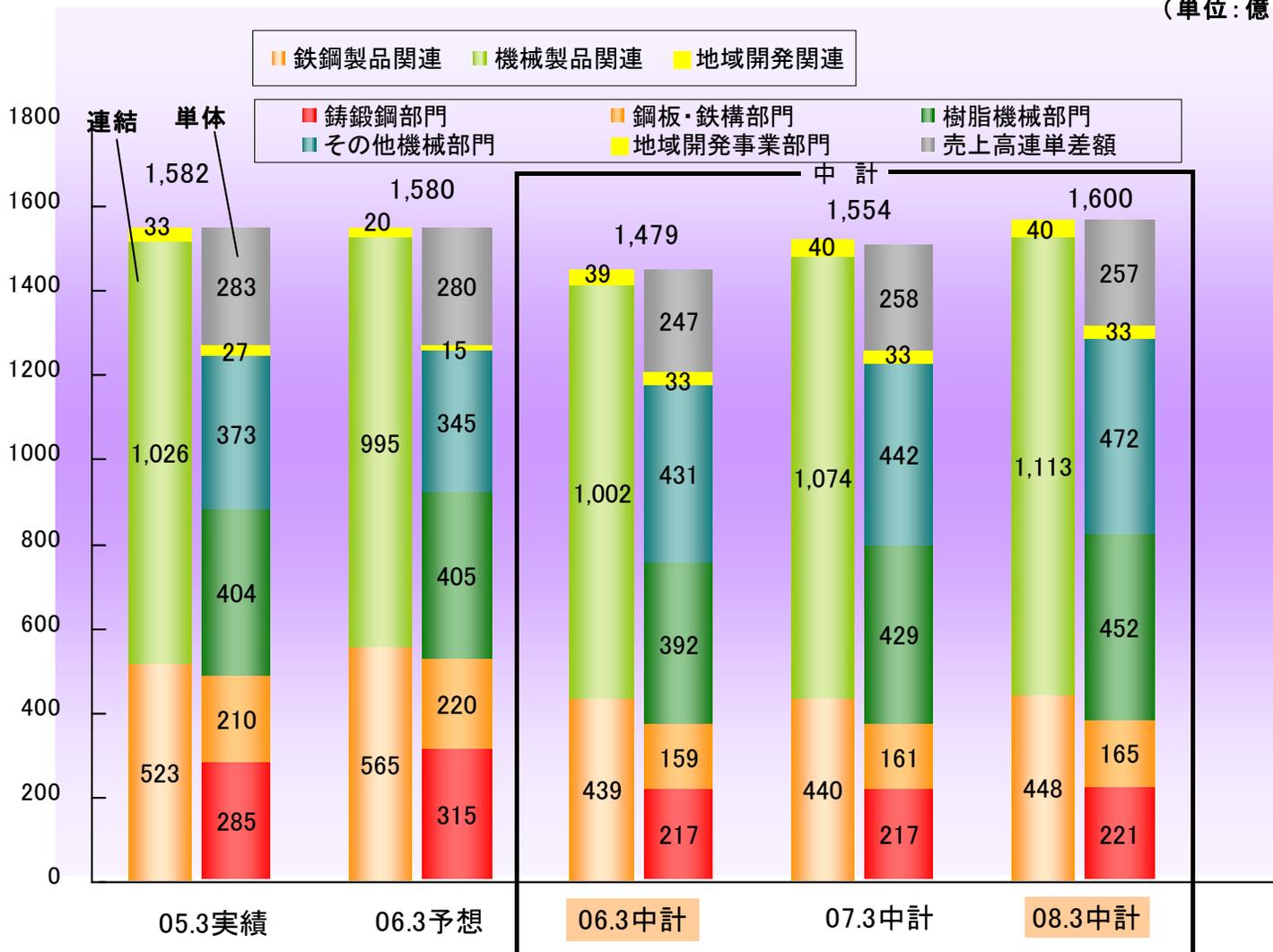
有利子負債(A)	733	681	621	510	圧縮資産(賃貸事業用ビル)売却による納税資金相当 納税資金相当70億円を除く
現預金残高(B)	131	154	155	169	
純有利子負債(A)-(B)	602	527	466	341	

第2部 06. 3期の業績予想

(1)06. 3期業績予想(売上高)

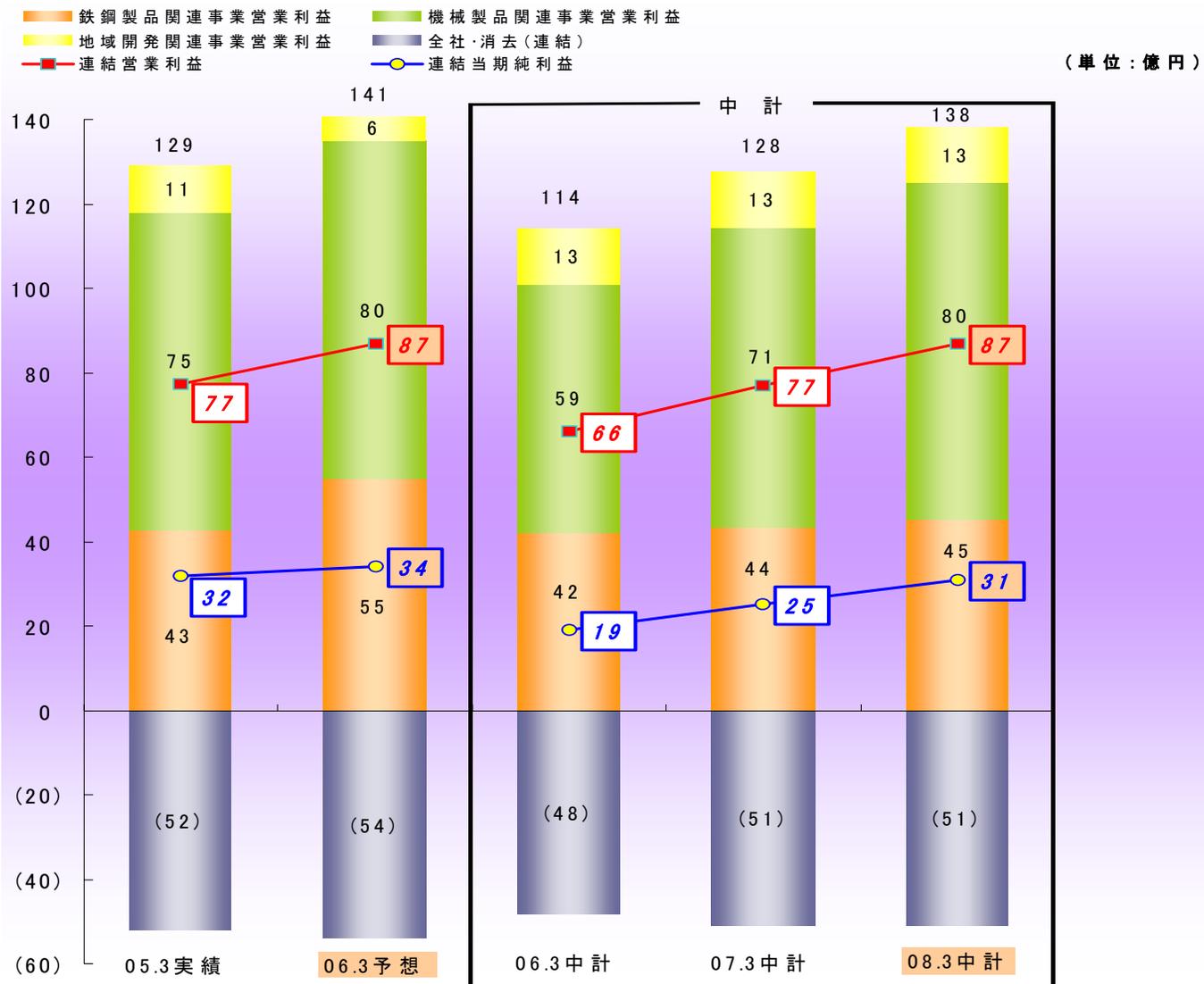
－08. 3期中計水準を狙う－

(単位: 億円)



(2)06. 3期業績予想(営業利益・当期純利益)

— 営業利益・当期純利益は08. 3期中計最終年度の達成を見込む —



(3)06. 3期業績予想

1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	04.3 実績	05.3 実績 (A)	06.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,363	1,582	1,580	99.9 %
連単倍率	1.19 倍	1.22 倍	1.22 倍	1.00 倍
営業利益 (率)	64 4.7 %	77 4.9 %	87 5.5 %	113.0 %
経常利益	46	62	70	112.9 %
当期純利益	20	32	34	106.3 %
一株当たり 当期純利益	5.39 円	8.70 円	9.16 円	105.3 %

2. 単体損益の状況

	04.3 実績	05.3 実績 (A)	06.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,143	1,299	1,300	100.1 %
営業利益 (率)	41 3.6 %	48 3.7 %	62 4.8 %	129.2 %
経常利益	33	42	55	131.0 %
当期純利益	14	24	28	116.7 %
一株当たり 当期純利益	3.75 円	6.39 円	7.54 円	118.0 %

一株当たり 配当金	2 円	3 円	3 円	0 円
--------------	-----	-----	-----	-----

(4)06. 3期 事業別売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		04.3 実績	05.3 実績 (A)	06.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品	売上高	425	523	565	108.0 %
	営業利益	37	43	55	127.9 %
機械製品	売上高	898	1,026	995	97.0 %
	営業利益	60	75	80	106.7 %
地域開発	売上高	40	33	20	60.6 %
	営業利益	14	11	6	54.5 %
消去又は配分不能費用		△ 46	△ 52	△ 54	103.8 %
合計	売上高	1,363	1,582	1,580	99.9 %
	営業利益	64	77	87	113.0 %

(5) 06. 3期 連結セグメント別の業績予想

(売上高・営業利益・受注高)

発電用部材(原子力を含む)は引き続き堅調に推移

売上高・営業利益		05.3 実績 (A)	06.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	285	315	110.5%
	鋼板・鉄構部門	210	220	104.8%
	(単体部門計)	495	535	108.1%
	連結会社他	28	30	107.1%
	連結売上高	523	565	108.0%
営業利益		43	55	127.9%

コストアップの吸収が進むほか、増産効果により増益に直結

(単位:億円)

受注高		05.3 実績 (C)	06.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	356	335	94.1%
	鋼板・鉄構部門	258	268	103.9%
	(単体部門計)	614	603	98.2%
	連結会社他	28	30	107.1%
	連結売上高	643	633	98.4%

海洋天然ガス田向けクラッド鋼管の増加

成形機の海外向けが減少

(単位:億円)

売上高・営業利益		05.3 実績 (A)	06.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
機械製品関連	樹脂機械部門	404	405	100.2%
	その他機械部門	373	345	92.5%
	(単体部門計)	777	750	96.5%
	連結会社他 (IT関連)	97	100	103.1%
	連結会社他 (その他)	152	145	95.4%
連結売上高		1,026	995	97.0%
営業利益		75	80	106.7%

原価低減の進捗と不採算工事の減少が奏効

受注高		05.3 実績 (C)	06.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)
機械製品関連	樹脂機械部門	440	430	97.7%
	その他機械	316	342	108.2%
	(単体部門計)	756	772	102.1%
	連結会社他 (IT関連)	75	100	133.3%
	連結会社他 (その他)	162	152	93.8%
連結受注高		993	1,024	103.1%

不採算製品の絞込みを実施

(6) 06. 3期の受注高・受注残高と07. 3期の傾向

06. 3期予想

○ 鋳鍛鋼部門

中国向けを中心とする発電用部材の受注環境は堅調
(05. 3期は生産枠確保のための前倒受注も含む)

○ 鋼板・鉄構部門

脱硫用圧力容器、クラッド鋼管等の受注環境は堅調

○ 樹脂機械部門

樹脂製造・加工機械は05. 3期並の受注を確保、射出成形機は中国等の海外向けで減少

○ その他機械部門

マグネシウム射出成形機、一般産業用機械が減少

→ 生産設備の能力アップ、生産工程の改善、納期短縮により、06. 3期予想を上回る受注高の確保を目指す

07. 3期予想

(受注・売上)

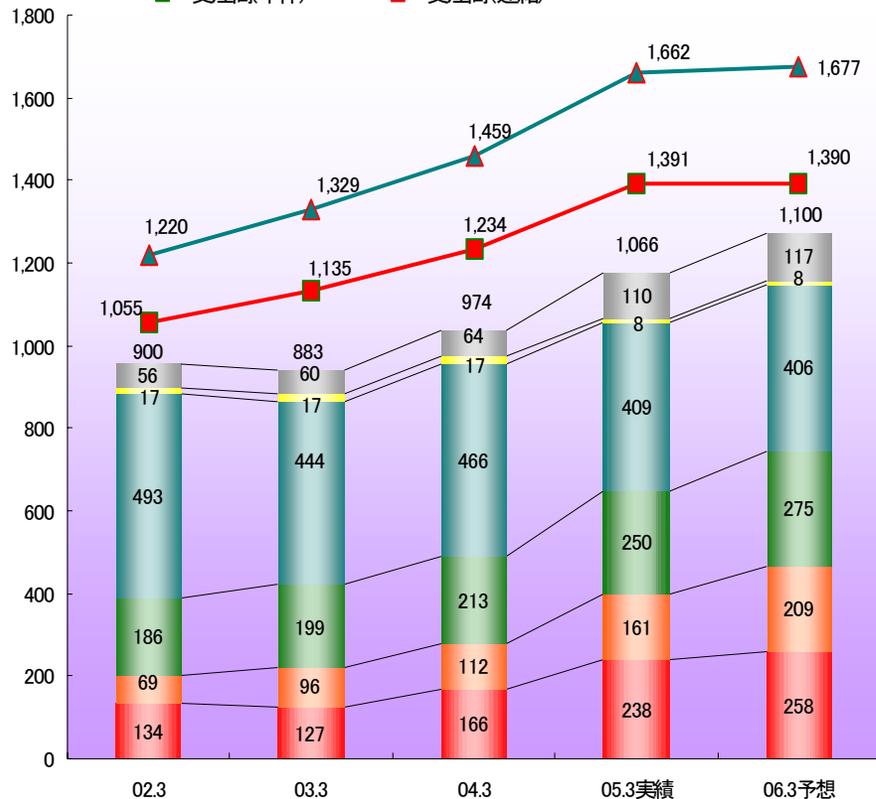
上記諸施策を更に進め、受注・売上とも06. 3期予想からの更なる上積みを目指す

(営業利益)

円高、原料・素材費の高騰への対応が進むとともに、増産効果が利益に直結し、06. 3期比増益を見込む



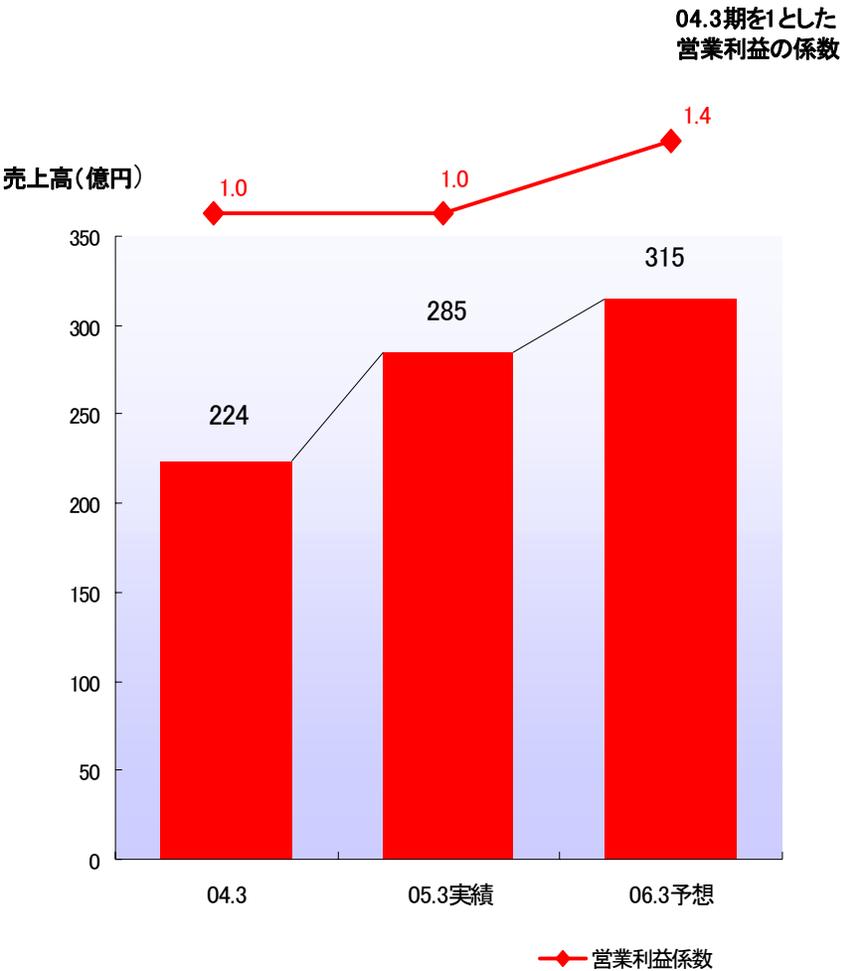
(単位: 億円)



第3部 各事業部門(単体)の業況と見通し

鑄鍛鋼部門：発電用部材の需要環境は引き続き堅調に推移

鑄鍛鋼部門(単体)の売上高・営業利益推移



06. 3期予想

- 原子力発電用部材の需要が拡大
 - ①中国では2基／年の新規建設の予定
 - ②仏国・国内で新規建設の予定
 - ③北米では取替需要は継続
- 原子力発電用部材等の需要拡大による生産能力向上のための設備投資を実施
- 電子材料用素材、鉄鋼圧延ロールも引き続き堅調に推移する見込み
- 引き続き、原料・素材費の高騰に対応した代価是正を推進

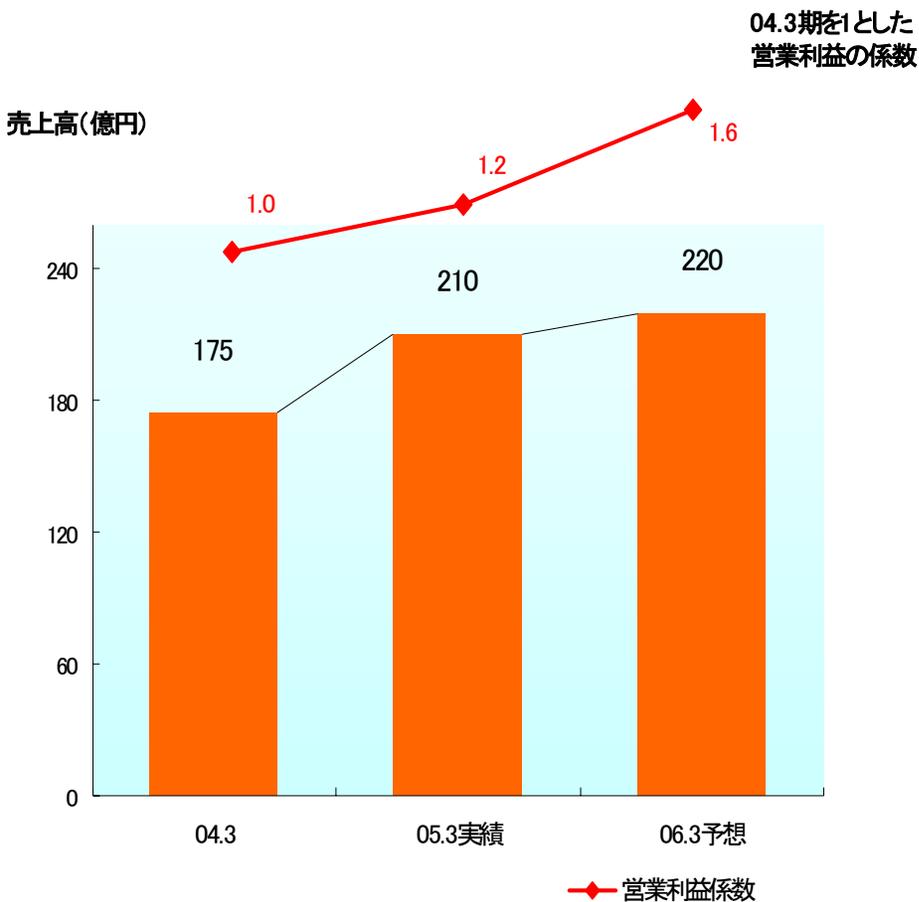
07. 3期予想

発電用部材は中国向けのほか、国内・仏国・北米等において原子力発電所新設案件等があり、市場環境は堅調
生産能力向上、増産効果、代価是正効果等により06. 3期比増益を目指す

鋼板・鉄構部門：製油所の新規建設と

天然ガスプロジェクトは引き続き活発

鋼板・鉄構部門(単体)の売上高・営業利益推移



06. 3期予想

圧力容器

○中国・韓国・中東での製油所新設による大型案件の継続受注に注力

○中東でのGTL(GAS TO LIQUID)の生産に備えた受注・生産体制の確立

クラッド鋼板・鋼管

○06. 3期以降、海洋天然ガス田の大型案件が継続

(世界の天然ガスの需要量)

2030年には1998年の2.1倍に伸長の予想

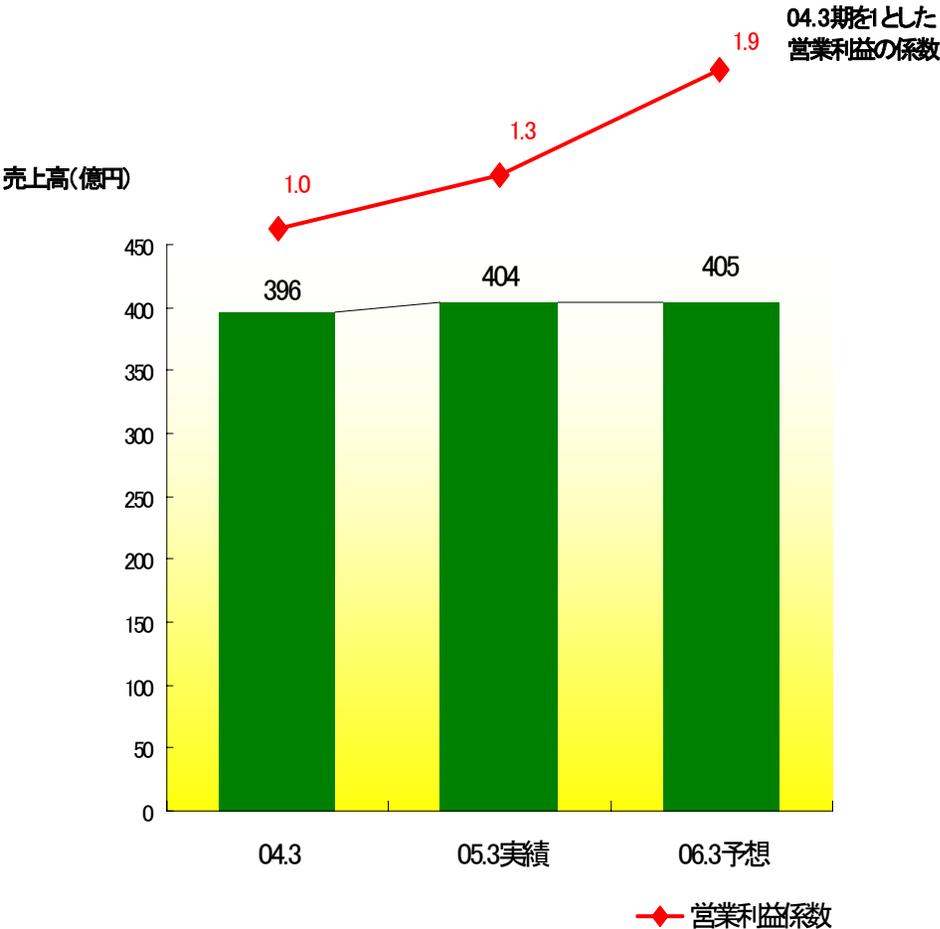
○海水淡水化プラント用は中東での案件が具体化

07. 3期予想

圧力容器の大型案件、海洋天然ガスプロジェクトとも堅調に推移する見込み、06. 3期並の利益の確保を目指す

樹脂機械部門：射出成形機は輸出減少、 樹脂製造・加工機械は利益率の向上を目指す

樹脂機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



06. 3期予想

成形機

- 中国経済の引き締め政策により輸出を中心に需要は減少見込み→海外向け受注高は05. 3期比10%減少の見込み
- 国内は自動車部品向けを中心に堅調の見込み

樹脂製造・加工機械

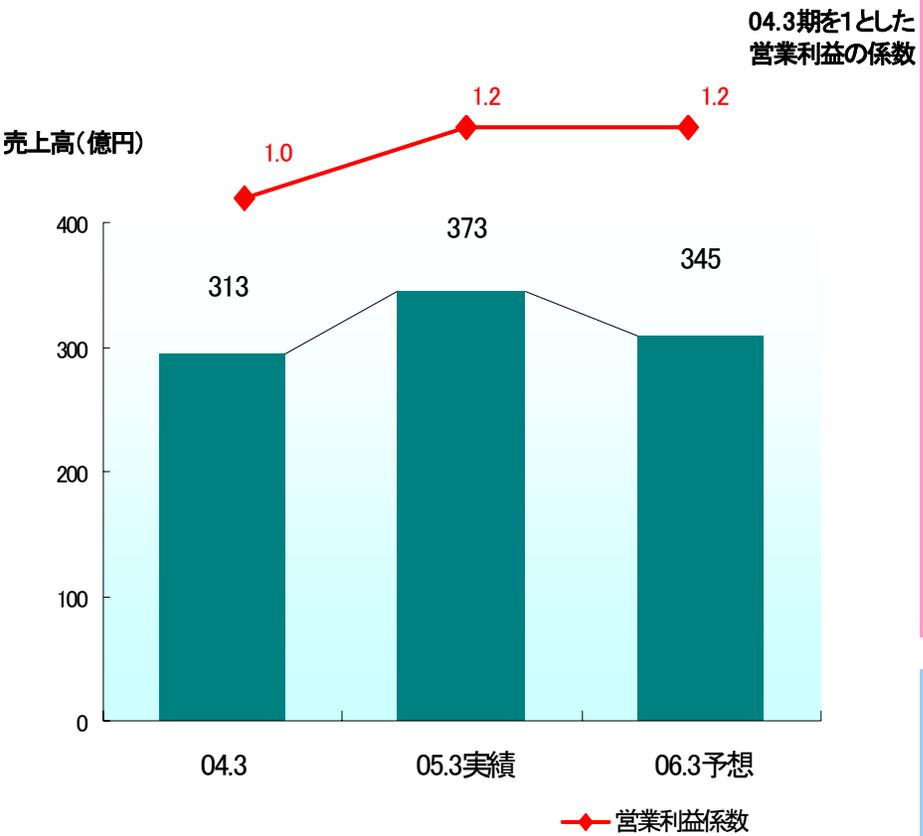
- 造粒機は不採算工事を一掃、代価是正及び原価低減を進め利益重視の受注活動を展開
- 押出機は北米・中国のテクニカルセンターを拠点に、本格的な海外戦略を推進
→利益向上の牽引役は造粒機・押出機の樹脂製造機械

07. 3期予想

- (成形機) 受注減の影響により売上・利益とも06. 3期比減少の見込み
- (樹脂製造・加工機械)
中国を中心に市場環境は堅調、代価是正、調達費改善を更に進め06. 3期比増益を目指す

その他機械部門：一般産業機械は減少見込み、 新エネルギー・環境分野で業容拡大の足掛かり

その他機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



06. 3期予想 防衛関連機器

○防衛大綱に定める正面装備品(戦車・火砲・護衛艦・航空機)の削減による影響は08. 3期から
→火砲・発射機以外の新規分野製品にも取り組む

IT関連装置

○受注高は05. 3期比10%増を予想
○次世代液晶・有機EL向けのSLSデモ機の設置によりユーザー試験に対応

新規事業

○風力発電機器、水素エネルギー、バイオガスプラント、廃プラスチック脱塩素処理設備、超臨界流体(微細発泡)押出成形等

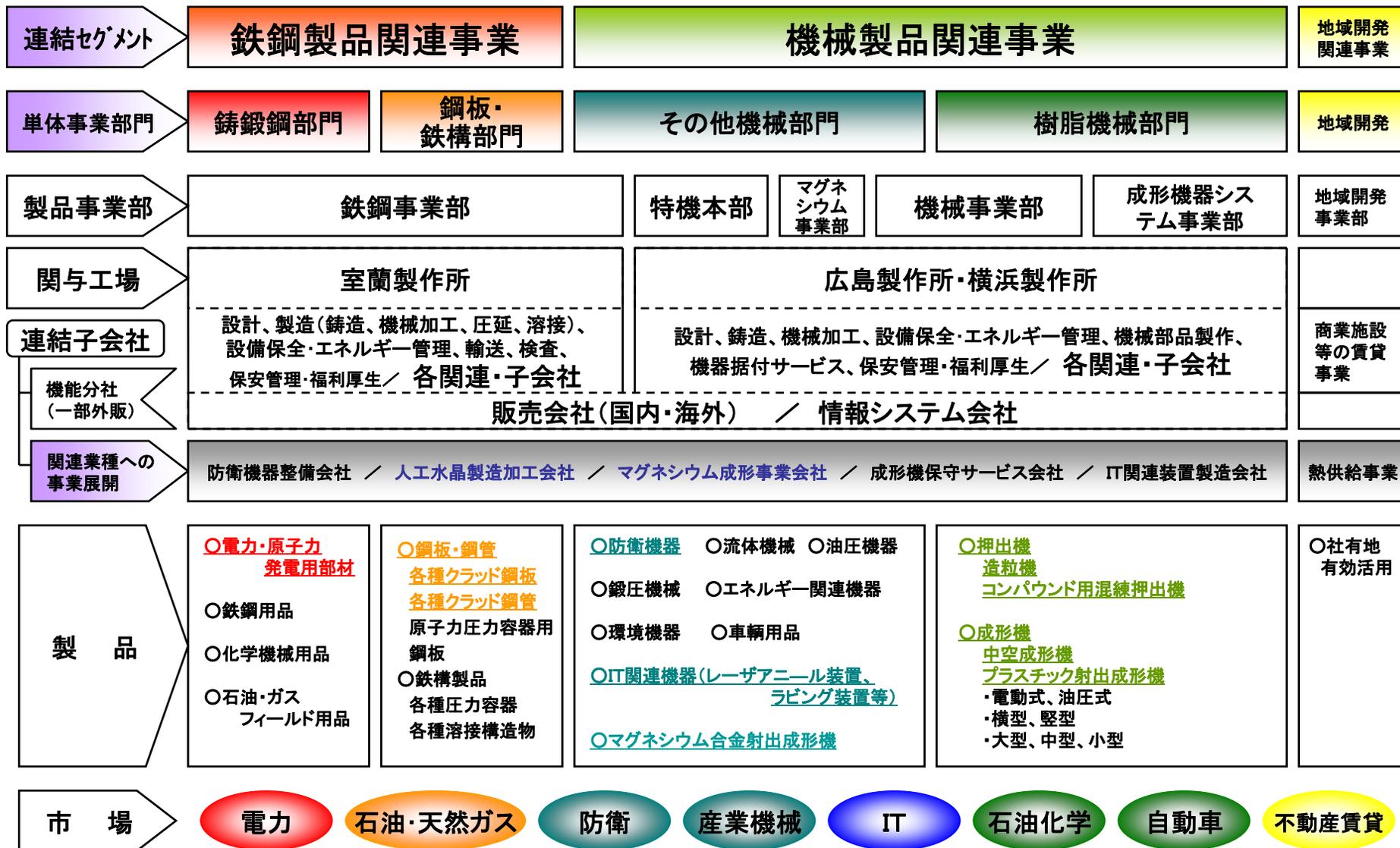
→不採算製品の絞込みにより売上は減少するも利益は05. 3期並を確保

07. 3期予想

IT関連装置市場は堅調に推移、マグネシウム合金射出成形機の用途及び顧客の拡大、新規事業の積極的な展開により06. 3期比増収増益を目指す

補足資料

事業部門の構成と当社製品群



当社の沿革

1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。

1920年
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。

1938年
1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足。

1983年 横浜製作所を移転。
デミング賞実施賞受ける。

1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。

1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工(本社の一部をJタワーに移転)

1994年 ISO9001・9002の認証を取得。

1998年 ISO14001の認証を取得。

2003年 室蘭製作所にて
14,000トン鍛造プレス竣工。



樹脂機械 樹脂製造機械から加工機械までのフルラインナップで市場拡大

樹脂機械(プラスチック関連技術・装置の流れ)



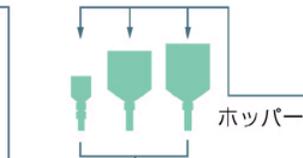
ポリマー重合リアクター
(石油化学プラント)

連続ミキサー
造粒システム

超大型造粒装置(CMP)



処理量: 20-50万トン(年)
モータ: 5,000-12,000KW



ペレット

コンパウンド用押出機
「TEXシリーズ」



高機能化

二軸混練押出機(TEX)

コンパウンド
ペレット

超大型化

食品加工機



食品用押出機



押出成形機



A-PETシート製造装置



中空成形機



NB150-2CCE連続多層中空成型機



射出成形機



大型電動射出成形機
J-ELIIIシリーズ(650)



マグネシウム
射出成形機



新シリーズマグネシウム合金
射出成形機(280トン)



廃プラスチック減容・脱塩素処理設備・システム(リサイクル処理、固形燃料処理)

連結財務諸表の概要

(単位:百万円)

	02.3	03.3	04.3	05.3実績
経営成績				
売上高	131,976	134,268	136,309	158,274
営業利益	4,288	5,813	6,394	7,721
経常利益	1,835	3,000	4,558	6,210
当期純利益	756	831	2,000	3,284
一株当たり当期純利益	2.03	2.23	5.39	8.70
株主資本当期純利益率	1.5	1.6	3.7	5.9
売上高経常利益率	1.4	2.2	3.3	3.9
財政状態				
株主資本	50,559	50,880	54,540	57,461
株主資本比率	27.6	29.3	30.3	31.1
一株当たり株主資本	136.11	137.00	146.86	154.59
キャッシュフローの状況				
営業活動によるキャッシュフロー	4,133	9,928	8,232	7,291
投資活動によるキャッシュフロー	525	△1,888	△2,791	13,611
財務活動によるキャッシュフロー	△2,150	△5,283	△5,959	△11,918
現金及び現金同等物期末残高	12,910	15,613	15,142	24,111